






アーティストプロフィール

伊豆市資料館			
			
清水 玲 Ryo SHIMIZU アーティスト／ 構想・制作		磯村 拓也 Takuya ISOMURA 映像作家／ 映像撮影・編集協力	
1977年生まれ、香川県出身。空間とその背景との関係性に着目し、主に文字を用いた作品を制作している。国内外でのフィールドワークやインタビューをもとに、場所固有の特性や歴史的背景と作家個人の私的な物語などを交差させながら、建築、映像、収集物、音声、文字、温熱環境の変化などを用いて、物事のつながりを再認識させるインスタレーションに取り組んでいる。		1984年静岡県生まれ。2007年東京工芸大学芸術学部メディアアート表現学科卒業。パフォーマンス・アーツ等の撮影を通じて、地域と芸術文化の交流を記録し続けている。近年の仕事に「LAND FES vol.12 PARADISE AIR」（2020年）、「ながめくらしつ連続公演『…の手触り』」（2020年）がある。	伊藤 允彦 Masahiko ITO サーベイヤー／ リサーチ協力
			

上白岩遺跡

			
住 康平　Cliff Edge Project Kohei SUMI アーティスト／ 構想・制作		鈴木 政希　Cliff Edge Project Masaki SUZUKI 左官職人／ オブジェ制作	
1979年岐阜県生まれ。2009年東京藝術大学大学院博士後期課程絵画専攻壁画画研究領域満期退学。2013年 Cliff Edge Projectを設立。これまでに「Cliff Edge Project 丹那の記憶」（2014年）、「Cliff Edge Project 半島の傷跡」（2015）、「Cliff Edge Project 水のかたりべ」（2018年）を主催。		1985年静岡県生まれ。地元高校卒業後、沼津の左官職人の下で修行。2016年独立し、鈴政左官を開業。独立後は、土と漆喰の工法にこだわり、全国各地で伝統工法の現場に従事しながら、腕を磨く。これまで、聚落、土壁、漆喰壁、竈、三和土、版築など、様々な左官技術に挑戦してきた。	千賀 基央　Cliff Edge Project Motonaka SENGA 木工作家／ 橋梁制作
			
		1984年神奈川県生まれ。2008年立命館大学大学院理工学研究科創造理工学専攻修了。2019年千が製作所株式会社設立。建築・大工工事の仕事として、バサディナハイツ／住宅改修（2020年、函南町）。木工／家具の仕事として、木造組み立てヤグラ（2018年、川崎市）などがある。	

大宮神社	大宮神社／上白岩遺跡	アドバイザー
		
中澤 美和 Miwa NAKAZAWA 日本画家		松本 圭司 Keiji MATSUMOTO 地域雑学
1982年静岡県生まれ。2007年多摩美術大学美術学部日本画専攻卒業。主な個展に「中澤美和展」（2019年 Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi）「還る景色」（2018年 アートスペース羅針盤 公益財団法人吉野石膏美術振興財団助成）。第7回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞 準大賞受賞（2017年）。	上智大学卒業。桑沢デザイン研究所卒業。2005年より山海塾に参加。「金柑少年」「卯熱」「ARC」などの主要作品に出演中。2011年より「LAND FES」を主催。2018年より、小田原市主催「スクランブル・ダンスプロジェクト」の講師を務める。	1949年静岡県生まれ。地域の歴史、地理などの膨大な雑学をもとに狩野城ガイドクラブや浄蓮の滝七不思議ツアーの企画、ラジオ番組のゲストコメンテーターとして活動する。今回のプロジェクトでは、アーティストへの助言、作品制作のサポートなどに深く関わる。

関連イベント

オンライン座談会「火山と人」 詳細はホームページにてお知らせします。
日　程：2021年2月6日（土） 13:30~15:30　オンラインにて開催
登壇者：小山 真人（静岡大学未来社会デザイン機構 副機構長・教授）×鈴木 雄介（静岡大学未来社会デザイン機構 准教授）×鈴木 裕篤（元沼津市歴史民俗資料館 館長）×伊藤 允彦（サーベイヤー）×松本 圭司（地域雑学）
司　会：平野 雅彦（ふじのくに情報文化センター・センター長、静岡大学人文社会科学学部 客員教授）

オンラインアーティストトーク 詳細はホームページにてお知らせします。
日　程：2021年2月20日（土） 20:00~21:30　オンラインにて開催
登壇者：展覧会参加アーティスト+松本 圭司（本展覧会アドバイザー）
司　会：鈴木 創（ラジオパーソナリティ）

舞踏家・松岡大による舞踏公演 参加募集についてはホームページにてお知らせします。
第1回　2021年2月27日（土）　18:00~18:30（会場：大宮神社）
第2回　2021年2月28日（日）　11:00~11:30（会場：上白岩遺跡）　定員　各50名

◇ 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、以下の注意事項を必ずご確認ください。
ご来場時、以下の症状に該当する方はご観覧をお控え頂けますようお願い致します。
発熱がある方／咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状がある方／だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある方／嗅覚や味覚の異常がある方／新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触の可能性がある方／同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる方／過去14日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域など等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある方

◇ 観覧時のお願い
マスクを着用してのご観覧をお願いします。／各会場に設置のアルコール消毒液にて手指の消毒をお願いします。／伊豆市資料館では、入館時に来館者の検温を行っていますので、ご協力ください。／ご同伴者、ほかの来場者及び会場スタッフとの間に適度な間隔を保ち、三つの密を避けてご観覧ください。／大きな声での会話はご遠慮ください。／ゴミは各自でお持ち帰りください。／住所・氏名等連絡先登録へのご協力をお願いします。個人情報 は、新型コロナウイルス感染症対策の用途にのみ利用し、その他の目的での利用はいたしません。／ご来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、保健所が実施する行動履歴等の調査にご協力ください。／伊豆市資料館及び舞踏公演では、会場内の混雑を防止するため、入場制限を行う場合がございます。

※厚生労働省、静岡県の新型コロナウイルス感染症におけるホームページを予めご確認の上でご参加ください。
※新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」を活用の上でご参加ください。

主催：クリフエッジプロジェクト
支援：静岡県文化プログラム推進委員会（静岡県文化プログラム地域密着プログラム事業）
静岡県文化プログラム推進委員会は、「地域とアートが共鳴する」をテーマに、オリンピック憲章で定められた文化プログラムを進めています。
文化・芸術による地域活動の振興を目指し、様々な団体等との協働による多彩なプログラムに取り組みます。
後援：伊豆市教育委員会、伊豆の国市教育委員会、伊豆半島ジオパーク推進協議会、株式会社 FM IS、静岡大学未来社会デザイン機構
助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団、公益財団法人 野村財団、公益財団法人 福武財団（2020年度 地域振興助成「アートによる地域振興助成」）
協力：伊豆市上白岩元村の皆さん、一般社団法人平成森鮮組、NPO 法人ステキなごえん、北狩野造園工務株式会社

企画：住 康平、松本 圭司　デザイン：池ヶ谷 知宏（goodbymarket）Web コーダー：磯村 拓也（iromono lab）、住 麻紀（aderi）　映像撮影・編集：磯村 拓也
計測・マップ作成：伊藤 允彦　マップイラスト作成：中澤 美和　展示照明：伊藤 啓太　舞台照明：鈴木 悟（株式会社 MOON LIGHT）　衣装：西川 千明
出版：住 康平、細道 航　アシスタント：吉田 陽彦、與山 日奈　コーディネーター：北本 麻理（静岡県文化プログラム推進委員会）

			
公益財団法人 花王 芸術・科学財団	NOMURA 野村財団	公益財団法人 福武財団	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム

			
2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム	2020 静岡県文化プログラム



Cliff Edge Projectは、2013年より伊豆半島を中心に活動してきたアートプロジェクトで、過去3回にわたり、伊豆半島の地質遺産の再発見、災害を後世に伝承することを目的とした展覧会を開催してきました。2014年から2015年にかけて開催した展覧会「丹那の記憶」と「半島の傷跡」では、田方郡函南町にある丹那盆地と盆地を南北に走る丹那断層をテーマにして、KURUBUSHI-BASEと淡月山長光寺の二つの会場を用いた大規模なランドアートを展開し、2018年開催の「水のかたりべ」展では、昭和33年にこの地域で猛威をふるい、伊豆半島北部を流れる狩野川流域に甚大な被害をもたらした狩野川台風をテーマに、国土交通省沼津河川国道事務所の管轄する狩野川資料館にて映像作品や関連資料を展示しました。今回の展覧会では、多角的な視点で地質遺産及び自然災害に目を向けることを目標とするため、時代背景の異なる3箇所の会場で、4組のアーティスト及びパフォーマーの作品を発表するスタイルとなりました。会場となる伊豆市上白岩地区には、伊豆市資料館、上白岩遺跡、大宮神社の三つのスポットが集まっており、これらが奇妙な関係を持ちながら、展覧会のテーマを支えています。

カワゴ平と中伊豆の地形

3200年前に噴火した天城山系の火山カワゴ平は、その噴出物によって、麓の地形を形成し、大見川流域の土地を造成してきました。今回の展覧会の舞台である、伊豆市上白岩は大見川流域にあり、カワゴ平との結びつきの強い場所です。3200年前は、縄文時代晩期にあたり、この地域にも縄文人が住んでいたと推測されることから、彼らもこの噴火を目にしていたことと思われます。自然への畏怖、環境の変化は、彼らの心理や生活に大きな影響を与えたことでしょう。その思いは現代のわたしたちが様々な自然災害に抱く感情と近いかもしれません。伊豆半島に身を置くと、数々の自然の壮大な営みがこの地を形成してきた痕跡を見ることができます。この様子を「躍動する山河」という展覧会タイトルに込めました。その圧倒的な自然の力を前にしたとき、わたしたちの存在は非常ににちっぽけなものだと実感させられます。その心理は、自然に対しての信仰（アニミズム）を生み出してきました。そして信仰の場を形成してきました。興味深いのは、太古から現代に至る過程で、信仰の場が変遷した土地が、上白岩にあるということです。それが上白岩遺跡と大宮神社なのです。そして、二つの信仰の場の中に位置する伊豆市資料館は、このエリアの自然資源や文化財をアーカイブする機能を持っています。

地図の見方

地図の上方（南側）に位置するカワゴ平の噴火により生産された堆積物は、降雨等により大見川流域を下り人々の生活に影響を与えてきました（赤い領域）。豪雨が降ればその堆積物は土石流といった災害として人々の暮らしを激変させます。

上白岩遺跡にあった信仰は、今となってはどの様なものかは定かではありませんが、大見川に対し高台（オレンジの領域）にあることから、山河の躍動によりもたらされる厄災を鎮めるためのものであったのかもかもしれません。時は移り、われわれは食料を得るために土木によって地形を改良するようになります。その結果、長い年月の中時折発生する災害を運ぶ大見川の水系よりも、大宮神社の上方に位置する農業用水として直角の流路に改良された西川の水系に人々の折りの源流が移り変わっていきました（黄色い領域）。カワゴ平から上白岩に至るまでの過程には、人々の折りの遷移が時空を越え折り重なっています。



1 伊豆市資料館 2 上白岩遺跡 3 大宮神社

伊豆市 / 上白岩

第一会場 伊豆市資料館

1987年に中伊豆町歴史民俗資料館として開館。4町（修善寺町、中伊豆町、天城湯ヶ島町、土肥町）の合併により伊豆市資料館となる。出土品、民具、文書、美術品は、そのほとんどが、地域住民からの寄贈によるものであり、小規模ながら幅広く展示物を収蔵している。

展示作品 清水 玲+磯村 拓也+伊藤 允彦
《a trace of strata》2021年
サイズ：可変
素 材：ミクストメディア インスタレーション

カワゴ平噴火の火砕流が作り出した地形は、狩野川台風において大量の土砂が流出し狩野川を氾濫させる大きな要因となった。中伊豆町の観光資源であった白岩温泉も流失荒廃。復興事業によって再湧出された源泉は、リハビリテーション中伊豆温泉病院の誘致に繋がる。

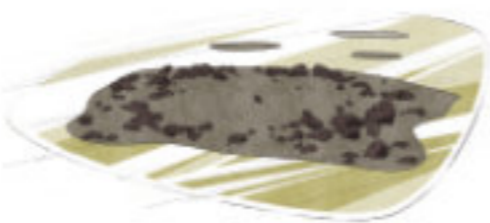
作家（清水）は、父親が1974年から77年までの3年間、リハビリテーション中伊豆温泉病院に勤務していたことを知り、宿命的な巡り合わせを感じて伊豆の各地を巡る。海底火山時代から本州との衝突、陸上大型火山時代からカワゴ平噴火までの伊豆の地形形成の痕跡を辿る物語と作家個人の回想は少しずつ繋がり、層を成していく。（清水）

第二会場 上白岩遺跡

上白岩遺跡は、1978年（昭和53年）に国の史跡に指定された縄文時代の遺跡。数なる発掘調査の結果、縄文時代中期後半から後期初頭の配石遺構・住居跡等の存在が確認された。直径12メートルの環状列石は、祭祀の場であったり、大規模な墓の集まりであったなどの説がある。

展示作品 Cliff Edge Project（住 康平+鈴木 政希+千賀 基央）
《中心の喪失、祈りの不在》2021年
サイズ：3,100cm×4,900cm
素 材：竹、棕櫚縄、麻縄、荒壁土、中塗土、砂、上塗り土、エマルジョン樹脂、檜

3000~4000年の時を経て発掘されたこの遺跡は、この地から縄文人が住むことをやめてから現代に至るまで、地中に埋もれていました。現在は、公園として整備され、そこに祈りの場としての機能はありません。環状列石の中心にあるべき祈りの対象も喪失しています。そこで、この祈りの不在を表現する作品を作りたいと思いました。環状列石にかけられた橋は、誰もいない舞台です。一方で、環状列石を同心円状に囲む円錐形のオブジェは、祈りの造形を表現しています。動かず中心に向かって祈る土像は、祈りの面影だけを湛えています。（住）



第三会場 大宮神社

伊豆市資料館の背後の森に鎮座するのは、鎌倉期の記録の残る歴史ある神社、大宮神社である。地域内外の人々の信仰を集めるこの神社の特徴と言えば、うっそうと生茂る鎮守の森と見えよう。森そのものが祈りの対象であるかのように、この地域のランドマークを形成している。

展示作品 中澤美和
《流転山水図》2020年
サイズ：181.8cm×364cm（2隻）
素 材：縄文炭、墨、岩絵の具、胡粉、水干、雲肌麻紙

上白岩地区、カワゴ平のリサーチを通して、自分の眼に映る風景には地球誕生から現在に至るまでの物語が宿っていることを実感しました。その物語とは、土、水、風、熱の移動が生み出す変化そのものであり、膨大な時間とエネルギーをかけた古から未来へと繋がってゆく終わりのない物語とも言えます。私はその中に、何世代にも渡って命を繋いできた人々の姿を重ねました。人の成長や消滅、祈りを大きな自然の営みへ向けて昇華させる術がもしあるとするならば、それはきっと水のように形を変え、大気の循環のようにめぐり続けることでしょう。そういったことから、取材地の風景とともに雲や大気をモチーフに選んでいます。（中澤）



大宮神社 2月27日（土）
上白岩遺跡 2月28日（日）

上演作品 松岡大
《I Am Her》2021年
上演時間 約30分

3200年前に噴火した伊豆東部火山群。山々から吹き出す7億6000万トンのマグマを見て、縄文人は何を感じたのだろうか。それはカタストロフでありながら、スペクタクルでもあったに違いない。噴火はコミュニティを破壊したのだろうか。あるいは絆を深めたのか。その光景を畏れとともに見つめていたであろう架空の「Her」の眼差しから、土地のマテリアルを用いながら身体と環境の境を問い直し、踊りの根元に迫りたい。（松岡）

CLIFF EDGE PROJECT

躍動する山河